



御神衣祭記念碑（表）



御神衣祭の趣旨と内容・役員構成を記す
基礎石と基礎工事は、後藤工業と藤原三治氏の奉納です。



感謝状を受け取る新成建設株式会社専務取締役 藤田剛士氏

編集 大分県玖珠郡九重町松木宝
 発行者 宝八幡宮 宮司 甲斐素純
 (☎0973-76-3254)
 発行日 令和 3年 9月 吉日

「御神衣祭」関連会計報告について

前文省略いたします。

新型コロナウイルスに対するワクチン接種は、もうお済でしょうか。思うにまかせぬ日々ですが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、先年来（平成二十九年）宝八幡宮では令和三年五月の大祭に向けて「御神衣祭実行委員会」を組織し、寄附活動と関連事業を実施してきました。

お陰を持ちまして、その時々の総代（実行委員）さんを始め、氏子並びに崇敬者の絶大なる物心両面のご指導・ご協力を賜わりまして、当初の目標を上回る諸事業が見事に完成いたしました。それらの内容については、社報「宝船」や「大地」にて順次ご紹介・ご報告をさせていただいておりますとおります。

諸事業の完了とともに、本年五月三十日には

「御神衣祭」の記念式典・御神衣の献上をさせていただきますました。本来ならばご寄附戴いた全員の方々をご招待しお一人お一人にお礼を申し上げるべきところを、新型コロナウイルスの感染防止のため、ごく限られた方々のみご出席を戴き、記念式典のみ執行いたしました。

当事業の会計は原泰三氏にお願いいたしました。原氏により厳密に年度毎の収入・支出の帳簿整理がなされています。

なお会計監査を七月十五日に実施しましたので、合わせご報告致します。

もしご不信な点がありましたら、お申し出ください。

最後になりましたが、「御神衣祭」についての皆様方の暖かいご理解・お心使いに、厚く感謝を申し上げます。

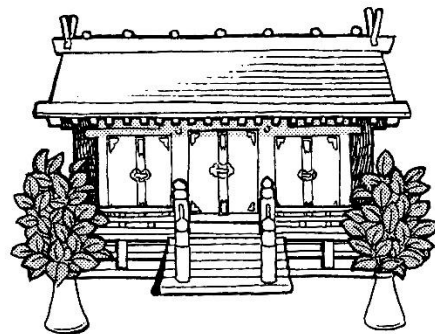
令和三年七月十六日

宝八幡宮 宮司

実行委員長

副委員長兼会計

（備考）以上の文書と共に、ご寄付下さいました全員に、収入・支出の明細を七月にお配りいたしました。



甲斐素純
 武石裕臣
 原泰三



(外灯、LEDに取替、六台)

拝殿前のスポットライト二台は、機材・工事費共に、「玖珠電気工事業有限公司」のご寄附です。



令和三年度宝八幡宮総代名簿〈敬称略〉

役職	氏名	地区
会長	藤原三治	川上2
副会長	井上英行	北恵良
会計	穴井正三郎	甘川水
責任役員	甲斐正	竜門
〃	野中憲一	見良津
監査委員	松木重徳	川上南
〃	池永誠治	前辻2
総代	吉武孝司	前辻1
〃	原克義	中須
〃	松木廣行	川下北
〃	乙津勝	野倉
〃	穴井敬祐	書曲1・2
〃	左藤広行	南恵良
〃	小野孝憲	田尻
〃	松木憲二	川上1
〃	笠原昭二郎	書曲3

顧問

井上隆記・藤原二郎・宮野敏夫・進武一郎・藤原三治・武石裕臣・原泰三

「神楽殿」新築落慶にあたって

九重フジ技建 代表 藤原 孝

御神衣祭の斎行、まことにおめでとうございます。宝八幡宮一千三百年の長い歴史の中で、三十三年毎に繰り返されてきました御神衣祭も、私の計算上四十四回近くになろうかと思えます。

私にとりまして今回の御神衣祭は、人生の中で特別なものとなりました。メイン事業の神楽殿新築工事施工の大役を頂きました。建築に携わる氏子の方々がたくさん居られる中で、請負うことはどうかと悩む時もありましたが、五年前より一緒に仕事をしております長男や周りの方々の支え、又氏子の皆様や崇敬者の方々の多額のご寄附があつて形となると思ひ、誠心誠意施工することが出来ました。

私は四十七年間建築に携わってきましたが、今回は一般住宅ではあまり使用しない土台・柱・桁梁全てが太い・長い・重い木材で、仕口や仕上げが全部見えることもあり慎重に加工しました。長男は化粧梁に、ひとノミひとノミの彫刻を担当してくれて見事に彫りあげました。

また御神衣祭の最も大事な行事であります「小型神殿三社」の作成依頼もあり、小さな御社だし気安く請負ったものの、古式に法り施工する中で、釘・ビス・金物は一切使用できず、小さな柱に穴を掘りホゾを差し、ノリや竹をそいで竹釘を作り組み立てる方法で、手間もたくさんかかりました。心は不思議と晴れ晴れと、完成のよるこびと変わって行きました(小型神殿は、奉納)。

親子で二度とめぐり合うことがなかるう(私三十三年後は九十才) 貴重な体験を頂き、ほんとうにありがとうございました。最後になりましたが、宝八幡宮のご発展と氏子の皆様方の益々のご健勝を、心よりお祈り申し上げます。

暑中御見舞申し上げます。至誠に満ちたお便り有難うございました。今回「御神衣祭」の三十三年に一度という気の遠くなる様な生涯の大行事の完了、誠におめでとうございます。しかもパンデミックコロナ禍の中、一つの宮がこれだけのご苦勞をし成功をしたことは宮司にとって、東京オリンピックを敢行したことに匹敵するレガシーと言えましよう。総代諸氏・協力者の錚々たる写真における顔ぶれは立派です。「啐啄同時」とは知っていましたが、規模がこれだけ大きく、長期に渡ると、思う通りに運ばぬこともあるでしょう。之を克服した宮司様を神が守った、それも大勢の信仰者を通して。ひたすら敬意を表します。

(令和3年7月28日、国東市)

河野輝明先生より拝受)

〈紫陽花のせん定〉

八月二日(月)午前中に、月次会・宝清会有志のご協力を得て、アジサイのせん定作業をいたしました。それまでに宮司は、下草刈りと大きくなりすぎたアジサイを、思いきって整理しました。

今年は蜂が多くて、手に三回もさされました。ご協力者のご芳名を紹介します。(敬称略)

藤原三治・井上孝太郎・友松哲郎・高田英一
寺元新八・中島 学・藤原しげ子(菓子持参)
豊田大志郎・清水圭太・宮司・祢宜